

九州地区における朝課外の実態調査

甲斐 佑菜

朝課外とは、九州の高校で行われている早朝の課外授業のことである。高校によって開始時間は異なるが、7時半から45分ほど実施している高校が多く、生徒の学力向上と希望する進路の実現を目指して行われている。本来は生徒の希望による任意での参加の意味合いが強いものであるが、九州の伝統として強制あるいは半強制的に行われるようになり、今日に至る。

九州において多くの高校で長年にわたって伝統的に実施されてきた朝課外であるが、近年その存在が問題視され始めている。2017年9月には福岡県議会代表質問において議員が朝課外が事実上の強制となっていることに疑問を呈し、福岡県教育委員会は同年11月、朝課外を任意参加とするように各校に通知を出した。この通知は、朝課外が1960年代に実施されるようになってから初めてのことであった。その後、大分県で、2018年にそれまで朝課外を実施していた公立高校すべてでその廃止が決定されるなど、九州における朝課外は現在過渡期を迎えている。

本研究では、朝課外に関して様々な議論があることを踏まえ、現在の朝課外の実施状況とその形態を明らかにすることを目的とした。研究対象は、九州地区の朝課外を現在実施している高校と過去に朝課外を実施しており、現在は廃止した高校とした。研究の方法は文献調査及びウェブサイト調査に加えて、ウェブフォームを用いたインタビュー調査を実施した。

調査の結果、朝課外実施校は、PTAからの依頼を受けて生徒の学力向上を目指し実施している学校が多かった。また近隣に予備校がないなどの学校の場所や周辺の環境も朝課外実施の背景には存在することが明らかになった。朝課外廃止校における廃止理由としては、生徒の主体性向上などの積極的な理由と、教育委員会からの指導などの消極的な理由の双方が存在することが明らかになった。

実施校、廃止校ともに朝課外の状況をホームページで公表している高校が少なく、朝課外の在り方を検討する議論を活発にするためには、朝課外の実施状況を公表することが必要である。また、朝課外を廃止しても生徒の成績は低下しない可能性があり、その相関関係を解明した上で朝課外の継続の是非を議論することが重要である。

本研究を通して、朝課外は長期にわたって九州地区における大きな存在として実施されてきたこと、PTAからの依頼に基づいて実施している学校が多いこと、近年生徒の主体性向上など様々な理由から廃止や縮小に動く学校が増加していること、廃止した学校の多くがその廃止を評価していることが明らかになった。

本研究では調査の対象が限定された範囲にとどまった。今後、調査対象をさらに拡大することで朝課外の詳細な実態が明らかになると考えられる。

(指導教員 吉田 右子)